

半世紀以上にわたる不動産事業での豊富な実績を生かし、アプリで家電や住設機器を遠隔操作できるスマートホームを中心に、情報技術を駆使して、暮らし、医療、防犯・防災、ショッピングなど多様なライフスタイルに応えるサービスを展開している同社。昨年創業60周年を迎え、今年4月にはギリシャ神話で家庭生活の守護神として登場する「ヘスティア」にちなみ、株式会社大倉から新社名を「株式会社HESTA大倉」に変更。AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット生活接続の技術)の住まいへの導入と活用を推進している。

情報技術で地方創生を実現

講演では「距離を越えて人やモノをつなぐことができる情報技術の発展と普及は、都市と地方の格差を無くす絶好の機会です」と強調。

一つの住宅内にとどまらず、遠隔地に暮らす家族同士や、地域の行政、医療、介護など各種機関が、同社の多彩なアプリやサービス、ネットワークを通じてつながることで、地方創生などさまざまな社会課題の解決に貢献する様子が、図表なども使って紹介された。

特に近年は電子カルテのクラウド化やオンライン診療など、医療情報システムの高度化が進んでおり、同社が開発するシステムと医療機関が連携することで、地方と都市の医療格差是正に役立つことが示された。



会場では「HESTA OKURA」の各種サービスに注目が集まった

最先端の顔認証技術を活用し防犯性能を高めた「HESTAカメラ」や、新しい暮らしのパートナーとなる「HESTA ROBO」など好評を得ている事例もリポート。同社の一連のHESTAプロジェクトが街、人、社会をつなぎ、どんな場所でも安心して快適な住まいを実現できる様子に、聴衆は興味深そうに聞き入っていた。

鬼塚氏は「地方から日本を元気にしなければならない。人々の生活を守り育てる存在としてHESTAの取り組みを進めたい」と語っていた。

■ HESTA大倉の問い合わせは、

☎ 0120・539・096(受付時間/9:00～18:00)へ。

◇◇◇ お知らせ ◇◇◇

HESTA大倉

「スマートホームで地方から元気に」 学研都市で基調講演

株式会社HESTA大倉(本社・大阪市北区)は10月、京都府精華町のけいはんなオープンイノベーションセンターで開かれた「京都スマートシティエキスポ2023」に協賛・出展。会長室室長の鬼塚友章氏が、「AI・IoT技術を駆使した地方創生プロジェクト HESTA SMART CITY」と題して基調講演した。



「京都スマートシティエキスポ2023」で講演した鬼塚友章氏